



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第九三号）

霜降そうこう

十月二三日



五十鈴川の水環境その一

名古屋市を会場に開かれているCOP10コップテン（生物多様性条約第十回締約国
際会議）。この生物多様性という言葉をよく耳にするようになりました。地
球上には様々な生物がお互いにつながって、生きており、その環境を守ろ
うというものですが、内宮前では五十鈴川がその指標のひとつになるの
はないでしょうか。

五十鈴川は伊勢神宮が管理する宮域林の神路山かみじやまを水源として、内宮の御
手洗場の上で島路川しまじがわと合流し、伊勢湾へ注ぐ二十キロほどの川。清流で知
られ、古くから詩歌に詠われてきました。実際にはどうなのでしょう。川
の水環境調査に立ち会うことができました。

調査を行うのは、宇治浦田町の浦田橋下流の左岸。五十鈴川をきれいに
する会の井手口克利さんが平成十七年から毎月行っています。気温、水温、
川水の状態、岸辺のゴミや水生動物、水の中の植物などの観察から始まり
ます。川をじっと見ると、アブラハヤやウグイ、シマヨシノボリなどの小
魚が活発に泳ぎ、スジエビという小さなエビも見つけました。川辺に来た
子供もエビを見つけ、うれしそうに指で差しています。よく五十鈴川の魚
が減ったと古老から聞きますが、確かに川に堰が出来てからはアユやスズ
キなどは上がってこなくなりましたが、小魚はそう減っていないのではと
井手口さんは話します。

以前に行った五十鈴川生物調査では、三重県のレッドデータブックに記
載されている絶滅危惧種のアジメドショウが確認されました。このドジョ
ウは川底の石の表面に付着する藻類をエサとし、冬には伏流水のある川底
に潜む性質をもつため、五十鈴川にそのような環境が保たれているという
証にもなります。川にすむ小さな生き物たちに教えられる川の豊かさです。

文 千種清美

